

南押原地区

人口	男	1,935人	女	1,910人	計	3,845人	世帯数	1,422世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

①友遊館事業 【福祉】

地域の課題である、人口減少、少子高齢化、人間関係の希薄化、郷土愛の精神不足等の課題解決のため、福祉事業6事業、支援事業（福祉事業を支える）4事業、文化・芸術育成事業5事業により地域の活性化を図る。

福祉事業・・・幼児・子ども・高齢者サロン、学習室、おかいものツアー、子ども食堂
 支援事業・・・友遊館カフェ、駄菓子屋、農産物販売、貸自転車
 文化・芸術育成事業・・・南押原博物館、ギャラリー、将棋教室、田んぼアート、
 健康麻雀教室
 友遊館の施設設備改修（内装、空調、カフェ・食堂設備等）、各事業運営の備品、消耗品等

②ふるさと祭り事業 【住民交流】

各地区で行われていた盆踊りを1か所で行うことによる集客、また魅力的な催しを行うことにより幅広い地域住民の参加を促した。

催し用舞台の購入、ジャズバンド等を招致

《収支決算》

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	5,804,000	3,086,000	1,521,000	2,174,728	858,139	13,443,867
その他補助金	0	0	0	0	0	0
自己資金	647,037	2,210,488	1,610,835	246,577	292,961	5,007,898
計	6,451,037	5,296,488	3,131,835	2,421,305	1,151,100	18,451,765

【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	5,274,856	5,296,488	3,131,835	2,421,305	1,151,100	17,275,584
事業②	1,176,181	0	0	0	0	1,176,181
計	6,451,037	5,296,488	3,131,835	2,421,305	1,151,100	18,451,765

《事業への取り組みを振り返って》

南押原コミュニティ推進協議会長
鈴木 節也



友遊館事業は、人口減少、少子高齢化に危機感を持ち、何か出来る事はないかと危惧していた時に、鹿沼市から、「閉館する児童館の建物を地域で活用出来ないか」との話から、事業の検討が開始されました。正式に旧児童館を鹿沼市から借り受け、地域の夢実現事業の拠点【友遊館】として、地域住民の居場所づくりが、平成28年8月にスタートしました。当初は、幼児・子ども・高齢者サロン、友遊館カフェ、駄菓子屋、田んぼアートの6事業からスタートして、現在は15の事業を展開しています。その内容については、福祉事業とその事業を財政的に支える支援事業、文化・芸術育成事業に分け5年間実施してきました。



友遊館外観



子どもサロンイベントの様子

1 福祉事業

① 幼児サロン

幼児と育児中の親とスタッフが交流。コミュニケーションを図りながら一時を過ごす事業。

幼児の親以外の人との触れ合い。親同士の交流は、大人同士（ママ友）の発展につながり、育児中の孤独化、悩み等を解消するのに役立っています。特に、ママ友の広がり大きく、情報交換の場となっています。また、5年間のうちには、幼児が幼稚園に行くようになったので時間が作れるようになったと、スタッフに加わってくれた人もいました。

② 子どもサロン

学童保育に行かない、行けない児童を対象として居場所を提供。

学習、運動と学校後の児童の成長を見守る事業。

スタッフの計画的な運営によって、場所を提供するだけでなく、楽しい、満足、充実生活の声を聞く事が出来ました。

長期休業中は地域の子どもと一緒に交流できるイベントを行うなど、他校の子との触れ合いは、交流の広域化が見られ、中学校での友達づくりにも役立っています。

③ 高齢者サロン

高齢者の居場所を多くすることにより、仲間づくりが図られ、交流の機会が幅広くなる事業。

今まで狭い範囲での交流から、多くの人とコミュニケーションが図られ（～ちゃん、ここに嫁に来てたんだ）新しい事実も知ることができる
と好評です。

集まりの最後に飲むコーヒーは「至福の時」と
いわれています。

広い地域からくると、狭い地域では行きづらい
人も、来やすいといわれています。



高齢者サロン

④ 学習室

地域は、都市部より学習環境が整っていない。だれもが等しく教育を受けられるよう考えて
の事業。（教育の機会均等）

教育関係者がスタッフのため、的確な指導がな
されているとの評価をもらっています。「も
う少し時間を増やしてほしい」「スタート時間
を遅らせて」・・・等の意見に耳をかくしてく
れるスタッフなので充実しています。

おかげ様で狙っていた高校へ入学できたとの
感謝のこともいただいています。教師は退職
後地域に出ないという汚名返上にもなって
います。



学習室

⑤ おかいものツアー

買い物困難な高齢者の方への交通手段として、希望者に希望の場所へ車で案内する事業。

買ってきてもらうことよりも、自分で行って、商品を見ながら買う事の喜びを、参加者は
楽しんでます。地域をまわってくれるのがうれしいとの声もあります。

*買い物支援事業によって参加者が減少しています。

⑥ 子ども食堂

コロナ禍の中、テイクアウトのみ、2回実施しました。

子どもばかりではなく、シルバー世帯、一人暮らしの高齢者の注文もありました。

大変おいしいと評判がいいようです。

2 支援事業

⑦ 友遊館カフェ

収益をあげ、福祉活動を支援すると共に、気軽に住民が集える居場所づくり事業。

第1水曜日は、15の事業が同一日に開催しているため、多くの住民（高齢者、スタッフ、一般の人）が集う場の一服の清涼剤となっています。高齢者からは「昔、若かりし頃、喫茶店にはなかなか入れなかった。今こうしてこられると、若い頃の願望が満たされてうれしい」との声。常連客も多く、また、他の事業のスタッフが終了後、カフェに集まり交流を図り、楽しい雰囲気、スタッフの居場所にもなっています。



友遊館カフェ

⑧ 駄菓子屋

子ども達の金銭感覚を養うと共に、子ども達が多く集まる居場所づくり事業。

持っている小遣いの中で、いくら使い、その中で何をいくつ買えるか、子ども達が考えている姿を見るとやりがいを感じられます。他事業の中で駄菓子を多く購入してくれるため、売り上げがあがっています。高齢者が孫のためにと買いに来ていたり、店にない商品を注文していくまでになっています。



駄菓子屋

⑨ 農産物販売

地域の農産物を直売、地域内からの調達であり、地域おこしと共に交流の場づくりをねらっている事業。

売り手と買い手のやり取りは、本人ばかりでなくまわりも元気づけます。高齢者が庭先でつくる野菜類の仕入れであり、趣味と実益を兼ねたもので、心身共に充実させています。女性スタッフは昼食時の買い物をするにより、家にいる人（トーチャン、ジーチャン、バーチャン）に喜ばれています。



農産物販売

⑩ 貸自転車

榎木駅で降りる人、地域の中を歴史探訪する人の交通手段となっています。5段ギア付きなのでよろこばれています。歴史探訪に役立っています。

3 文化・芸術育成事業

⑪⑫ 南押原博物館、ギャラリー

地域内の歴史を知り、郷土を愛する心を育てる、また、文化の作品を展示することにより生きがいにつながる事業。

地域内に展示場所があることは、文化人の更なる励みになっている。身近な地域の歴史を、特に小・中学生が知り興味を示すと共に、探索もするようになっています。

⑬ 将棋教室

新型コロナウイルスの影響で教室を開催できない状況です。

⑭ 田んぼアート

地域おこしの事業

3年間実施しましたが、その後はコロナの影響で実施できませんでした。各单位自治会で規模を小さくして実施しています。



田んぼアート

⑮ 健康麻雀教室

新型コロナウイルスの影響で教室を開催できない状況です。

友遊館事業はボランティアの皆さんのあたたかい心に支えられながら、地域の人達が気軽に互いに交流を図れる「居場所づくり」を目指しているものです。人口減少が進行している地域の中にあっては、欠くことの出来ない大切な居場所、心の支えとなる交流の場として、更に充実していきたいと思えます。

ふるさと祭り事業は、アイデア会議において、学区ごとに実施していた盆踊りを1ヶ所で行うことで南押原地区住民の交流が深まり、踊りの輪、心の和を図り、また、子ども達に地元の良さを知ってもらえる事業をという事で、平成27年に第1回ふるさと祭りを楡木小学校の校庭で実施、第2回からは新しく建設されたコミュニティセンターに会場を変更して実施してきました。更なる集客や交流、事業の継続を目指して、平成29年度に地域の夢実現事業において、催し用舞台の整備を行いました。その年はジャズオーケストラを招致して演奏をしていただき、お祭りを盛り上げることができました。ここ2年間は新型コロナウイルスの関係で、ふるさと祭りを行っておりませんが、毎年大勢の住民の方々においでいただき、楽しんでいただけたことで、目的は十分に達成できたのではないかと考えております。今後も事業継続のため活用していきたいと思えます。



ふるさと祭り